

植物と植物

芸術研究科 造形表現専攻
写真・映像領域 博士前期課程
2024年3月修了

郭棟

主査 百瀬俊哉 副査 大日方欣一 佐藤慈

研究背景

植物は自然界で重要な役割を果たしているため、都市化と異なるように思われる可能性がある。しかし、郊外におけるコンクリートとの空間争奪戦が繰り広げられる植物であれ、プラスチックや金属などの人工的な材料で作られた偽植物であれ、それは都市化のプロセスを既に経験し、私たちの公共空間に対する認識を微妙に変えてきた。したがって、都市発展が特定の計画に従うように、人間は自然に対する体験をコントロールしようとしている。

研究目的

都市化の進行は自然の景観の変化と密接に関連しているだけでなく、変化する環境への対処方法が重要だと考えている。本研究では、都市にある植物を写真で捉えている。客観的な写真の眼差しを保ちつつも、周囲の状況や植物自身の様子を通して、植物の魅力を表現している。こうすることで、私たちの身の回りに存在する植物に注目し、都市における人間と自然との共存の問題に関心を向けることができる。

研究概要



成果・まとめ

撮影期間中、私はこの巨大な工業の森の中を歩き回り、適切な被写体を探した。この作業は被写体を見つける感受性の訓練であり、その被写体の植物が本物かどうかにかかわらず行われる。またこれら作品では、被写体を本物の生命を持つ植物と人工材料で作られた偽の植物に分けている。一方、本物の植物は、人間の活動が植物に与える影響を明らかにし、偽物の植物は、人間がいかに自然をパラドックスに変容させているかを暗示している。人工的な素材で作られた自然は、自然といえるのかを考えながら制作しました。



指導教員コメント

都市の中にある自然の痕跡、あるいは植物の中に人工的な痕跡を見つける方法を独自の視点で探求している。写真によって視覚化していくことで、構成する風景、街、ものを多角的に表現することに成功しており、作者の独特な視点が伝わってくる秀作である。今後も継続して制作することで、自身の撮影行為が何を意味しているのかが明らかになっていくことを期待している。

百瀬俊哉